

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：教育学部学校教員養成課程英語教育コース A 選択

学年：4 年

留学先大学：アルバータ大学

現在の学期：Fall term

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	14:00~15:30 EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors
火	12:30~14:00 LING 320 Second Language Acquisition
水	14:00~15:30 EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors
木	12:30~14:00 LING 320 Second Language Acquisition 17:00~20:00 EDPY 416 Introduction to the Teaching of English as a Second Language
金	
土・日	

履修科目や近況について

最初に授業について、次に生活や友達などについて説明したいと思います！（書いている時期は fall term の中間くらいになります。）

【授業】

私は、選考が英語教育であり、非英語母語話者向けの指導法の TESL(Teaching of English as Second Language)に関することを学ぶ目的で渡航を決めたので、第二言語関係の授業を履修しています。

履修登録の開始は4月ごろから始まりました。人気のある授業は早い段階で埋まることもあるので早めに履修登録をすることをお勧めします。

EDSE 369 Curriculum and Teaching for Secondary School ESL Minors

月曜日と水曜日にあるこの授業は、30 人弱くらいの小規模クラスで、中高生向けの

授業内容を想定している教育学部の授業です。理論を学びながら、実際に指導案を書いたり、簡単な模擬授業をしたりなど、実践に近い授業です。実際にカナダで行われている授業づくりについて学びたいと思い受講を決めました。（ESL とは English as Second Language の略であり、第二言語として英語を学ぶことを指します。以下 ESL と記載します。）

これまでは発音、語彙、文法、リーディングの指導法について、学習しました。具体的かつ専門的な内容が多く、将来の材料となりそうです。印象に残っている授業内容は2つあり、1つは色々な国の人の持つアクセントについて考えたことです。テキストを見ないで、音声のみ聞いたときに、分かる単語は何か、分からない単語は何か、また、何処が原因で、分からなさを生んでいるのかということを考え、非常に興味深い時間でした。2つ目は、カナダの先住民の方々にルーツがある子どもたちがクラスにいる時に、どのようにサポートをするのかというものです。カナダでは、他でも全体的に先住民の方々のことを考える機会が多く、歴史から学ぶという点で色々と考えさせられる時間でした。一緒に履修している学生は、現場経験のある方もおり、年齢も多様です。授業中の生徒と先生の相互のやり取りが半分くらいを占めながら、進んでいき、グループワークも多く、色々な意見を聞くことが出来る環境です。また Yvonne 先生は非常に面白く、留学生の私のことも気にかけて下さり、感謝しています。

課題や評価

指導案を書いた際は、アルバータ州の学習指導要領の様なものに基づきながら、作成していくので、少し時間がかかりました。ですが日本の学習指導要領と比較することができ、興味深いです。特に曖昧になりがちな評価の部分ですが、様々な項目、技能に対し、“そのレベルが達成されたとみなせる語彙レベルはこれである”のような明確なループリックがきちんとあり、非常に学びになりました。

この指導案は、TBLT (Task Based Language teaching タスクを通してながら英語を学んでいく授業) が課題でしたが、先生がレストランでの会話とか架空のものばかり考えるよりも、色々な教科の題材を基に授業を作る方が、中高生の学びにあっていると言っていたことも印象的です(説明を後述します)。実際に教科の題材と英語のレベルにあった Reading を一つ見つけて、タスクを通して、教科内容を身に付け、同時に語彙や文法についても触れるという授業形式で作る課題でした。

毎週のプレ reading の課題は 15~25 ページほどで週によりまちまちです。かなり量が多いので、読み切れないと思うときもありますが、ESL での実践的なアクティビティやクラス運営について書かれた教科書で、学ぶことが多いです。また、その内容や授業で触れた理論も加味しながら、指導案も作成するので、提示された日程通りに読む方がよさそうです。

テストはないので、この指導案と指導案のリフレクション、これからやるプレゼンなどが（各 15% くらい）評価に入ります。課題はそれぞれが成績の何%を占めるのかということと、作成前に評価基準とループリックを示してくれるため、それに沿って

作成していきます。また、フィードバックが次の課題前には返ってくるので、それを基に振り返りながら、作成することが出来ます。

一つ私が勘違いですが、この授業は Minor（主選考は別のもの）の人向けの授業でした。私は主選考自体が ESL であり、作成する指導案が自身の Major の授業を（例えば数学など）ESL 向けに作るという課題だったので、どうしようかと迷い、先生に相談をしました。すると、先生が Grade 8（中学 2 年生）の社会で日本の歴史を少し学ぶということを見つけてくださり、日本がどのように学ばれているのかということも興味深かったため、社会の題材で作成しました。

2 週目からこの授業を見つけたので、Minor の方が、入りやすいだろうという理由でこちらを選んでしまいましたが、同じ内容の Major 向けのクラスもあるので、こちらを選んだ方が良かったのかもしれませんが。（ただし Major は主選考の人で埋まる可能性もあります。）しかし、結果的に、実際に色々な社会的な記事などを題材にその中から、文法や語彙の学習もできるものを探すというのは、Authentic な題材で学ぶことを推奨されている今の英語教育に役立ちますし、CLIL（教科内容を多言語で学ぶもの）やイマージョン教育にも繋がる経験ができたので、良かったと思っています。

LING 320 Second Language Acquisition

火曜日と木曜日の開講されており、40 人ほどのクラスで文学部の授業です。

色々な第二言語習得の理論について、言語そのものや社会学、心理学的なことが与える影響なども含めて、様々な角度で学んでいます。先生が解説をしながら、学生にその理論についてどのように思うかという意見を多く求めて、理論の検討をしています。後にバイリンガルについてのトピックも取り扱う予定になっているため楽しみです。そもそも第二言語習得についての理解を深めたいということと、授業を考えていく中での理論的背景を持ちたいという理由で受講を決めました。

かなり量、質ともに高く、毎回の授業中の Discussion Question も一筋縄ではないかな教材が多く、学びごたえのある授業だと思います。千葉大学の教育学部の授業でやった、英語学概論の授業で学んだことが活きる授業です。私は手が回りませんでした。この授業をとるなら、復習をすることをおすすめします。

具体的には、第一言語習得で該当するものが、第二言語習得の時も同じように考え得るかということや、2 つの理論を比較してどちらの方がより説得力があると感じるかなどを考えました。第二言語習得の際に、2 つの言語間で似ている言語と違いの大きい言語ではどちらの方が間違いが起こりやすいかなども興味深かったです。（ここでは日本語も英語とは大きく違う言語の例として登場しました。）また、コミュニケーションの社会的な違いの際に、電話の始め方の例で、日本はかけた方が最初に話す文化だと取り上げられたことがありました。友達との通話は勿論、正式にも厳格なルールがあるわけではないのに、他の国でこのように思われていることもあると知り、面白かったです。

Marina 先生は、たくさんの言語の例を出してくださり、わかりやすく説明をしてく

ださります。また学生の中には 3～5 個の言語を話せる人も多々おり、そのような方たちから、自分の経験も踏まえながら話を聞けるのは、非常に興味深い経験です。ですが、理解するまでに時間のかかる場合も多く、私の中では予習と復習が必須の授業でもあります。受講している中では一番ハードですが、周りの優しい友達にいつも助けられています。

課題や評価

日々の課題はありませんが、教科書のプレ reading は、教科書 1 章分くらいの文量です。また、2 回の間中間試験（各 25%）と 1 回の最終試験(43%)、2 つのディスカッションのレポート（各 3%）があります。

まず、中間試験ですが、こちらに来てから初めてのテストであったため、そもそも問題が理解できるかということで非常に緊張と不安でいっぱいでした。（今の所そのようなことが無かったのは幸いです）テストはマーク式の問題と簡単な記述がありました。授業内容と教科書を復習すれば大丈夫だと思いますが、かなり核心的なことを突いてくるので、きちんとひとつひとつの理論、他との違いを理解する必要があります。

ディスカッションレポートは、私にとって救済の様な存在と言えるかもしれません。内容は授業でディスカッションした質問から 1 つほど選び、何を話し、どのような意見が多かったかということをもとめた後に、自分の見解などを述べます。目的としては、授業中に皆がディスカッションをすることが得意というわけではないので、それを表現する場を与えてくださっているとのことで、まだまだ言語の力不足でなかなか深い議論をできない私にとって、時間を取って考えることのできる良い機会となりました。

また、テストも含め、全て 1～2 週間以内に評価がつくので、今後の方針が立てやすいと感じます。残りの中間と最終試験も頑張りたいです。

EDPY 416 Introduction to the Teaching of English as a Second Language

この授業は木曜日の週 1 回ですが、17～20 時の 3 時間の授業で、時間带的にも、日本ではなかった経験です。と同時に、これはアルバータ大学に留学をすることにした決め手の授業になります。英語を母語としない学習者に向けた指導法や異文化理解の学びを深めることで日本の英語教育を俯瞰的に捉えたいと思い、履修を決めました。

全体は 40 人ほどで、516 を履修している院生の学生と同時開講なので、一緒に授業を受けています。学生は元教師の方も多く、非常に多国籍な環境でもあります。TESL のコースの一つの授業にもなっており、ESL や EFL 環境における子ども～大人の学習者に対して、言語学習の理論、学習者のこと、文脈や環境のニーズなども含めて英語を教えることについて学んでいます。

先ほど挙げた LING320 や EDSE369 の中間のような印象で、内容的に被るところもありますが、他の角度から学ぶことで相互に復習にもなりますし、この授業は最終的

に教えることが想定されているので、どのようにクラスで応用できるだろうかと考えられるところが興味深いところです。

カナダは移民が多いので、教室で教師が対応しなくてはならないこと、知っておかなくてはならないこと、言語に対する寛容さなどが違うと感じます。Bonnie 先生は非常にフレンドリーで、出来るだけ全ての学生がめいっぱい学べるようにということを気にかけて下さる良い方です。先生の第一言語が英語だからということもあり、英語の他にそれぞれ特有の言語を話せるということは本当に素敵なおことで誇りに思っているということをおっしゃっており、とても素敵な考え方だなと心に留めておこうと思います。

授業は、これもグループ活動やディスカッションが多く、自身の受けた L2 の授業についてなどの意見を交換したり、生徒が学習段階やエラーについて一緒にまとめていたりしています。色々な国での英語教育について共通点、相違点等を聞けるのは面白く、夕方の授業ですが、楽しく眠くなったことはありません。今後ゲストスピーカーの方も来るようなので、そちらも楽しみです。

評価や課題

中間試験(20%)と最終試験(40%)が 1 回とリフレクションペーパー(25%)、eclass 上のフォーラム投稿数回(15%)です。

プレ reading は毎回 15~25 ページほどで、教科書が難しいので読むのに少し苦労します。

中間試験は対面ですがパソコンで行いました。小問と少し説明や理論に基づいて授業を想定した簡単なシナリオ作りなどの writing があり、少し難しく感じました。英語のタイピングが速くないので、最終試験までに少しでも速く打てるようにならねばということです。フォーラム投稿は何個か提示されているトピック（教科書の内容）と質問から選び、投稿します。友達の投稿に対して3回以上返信を書くことも課題のうちになっており、他の人が自分の投稿についてどのように思ったのかということを知ることが出来るので、非常に面白いです。

その他授業について

・履修：

3~5 個授業を取ることが出来るので、最初はジェンダーやグローバル社会学系の授業も登録して参加してみました。しかし背景知識がないため、専門的なことはかなり厳しく、締め切りギリギリまで参加し迷いましたが、自身の選考に絞りました。3つでは少ないのではないかと考えていましたが、色々な方にアドバイスをもらい、今の時間割に決めました。結果的に授業の予復習に時間を割くことが出来ているので良かったと思います。

・プレ reading：

私が千葉大で受けていた授業と大きく違う点は、プレ reading の量です。各授業毎週

のように教科書や論文を読む課題があります。読まなくても授業への参加はできますが、溜めてしまうと、授業の理解度、テストや課題の時に響くと感じました。また、プレ reading をしている前提で、授業ではそれについて考えるディスカッションの時間が多く取られていると思います。

・ 学生の様子：

こちらの大学で驚かされたことは学生が多く発言をするということです。多くの学生が挙手をし、授業についての質問、自身の体験や意見などを積極的に述べます。授業の内容に真剣に取り組んでいる様子が伝わり、その意欲の高さに脱帽するばかりです。どの授業も楽しいと同時にとてもハードルが高く、もっと英語力を高めておけば良かったと感じます。

LING320 の授業での忘れもしない経験について書かせていただきますが、授業がはじまって2回目頃に、目が合ったため、指名されたことがありました。その時は「この理論について何か知っていることはあるか」という問いかけだったかと思いますが、私が言えたことは、説明する英語力がないという弁解だけでした。言えることだけでもと促す先生を前に、穴があったら入りたいと思う瞬間でした。その経験から、留学中に「クラスで発言をしよう」ということを目標に取り組むことにしました。最初は小グループでのディスカッションも、皆の発言についていくことだけが必死で自分の意見などはほぼ言えなかったので、まず聞き取ることに集中し、次に、小グループのディスカッションで発言をすることを一歩目としました。難しく自信を失いかけたこともありましたが、1 か月ほどで少し慣れてきたと感じています。そのため、次にクラスで挙手し発言することを試してみることにしました。これはかなり緊張し、話しながら、頭の中が真っ白になった覚えがあります。また質問が来る可能性も想定していなかったので、かなり焦りました。これからの目標は、発表ということにし、次の報告書までに、何らかの進展があるよう努力する所存です。ですが、どのクラスも発言のしやすい暖かな雰囲気クラスであり、恵まれた環境であると日々感じています。

【生活】

周りの人に恵まれ、不自由なく楽しく生活を送ることが出来ています。色々な国からきている学生が多くいるため、他の国で生活することの心境や生活そのものの大変さなどを理解とサポートしてくれる友達、組織が多くあり、感謝しています。

9 月のカナダは、からっと晴れて過ごしやすい気候でした。キャンパスの建物、自然も非常に綺麗で、歩くたびに感動をしています。10 月中旬頃に入ると、朝晩、0 度以下と、冷え込む日も出てきました。





教育学部棟です。→



以下、時系列に沿って書いていきたいと思います。

・～到着：

空港に Airport Welcome の学生ボランティアの方がおり、本当に運がよく、丁度シフトが終わり、方向が一緒であるということで、宿泊先まで荷物を運ぶのを手伝って下さりました。もしその方々がいなかったら、1 人で見知らぬ土地で、不安でいっぱいになっていたと思いますので、感謝しかありません。次の日の入寮時も助けていただきました。

・～授業開始まで：

到着してから数日間多くのオリエンテーションに参加をしました。インターナショナル生のもの、新入生のもの等です。インターナショナル生のオリエンテーションで会ったバングラデシュの友達とは、その後も時々ご飯を食べたり、イベントに参加をしたりしました。Welcome week(授業開始後も続きます)という名前で音楽系のイベントやキャンパスツアーなどのイベントやサポート、説明会が開催され、サークル紹介

などのブースもありました。友達を作ることや大学について知るためにも、積極的に参加をすることをお勧めします。現実的なことを言うと、ランチなどを提供してくれるイベントもこの期間は多く、特にまだ、スーパーなど、何処に行けばわからない期間だったので、非常に助かりました。

また、この時期に昨年～今年度にかけて、千葉大に留学にきていた友達2人と再会しました。話を聞いてもらったり、買い物を手伝ってもらったりなど、知り合いに会えたということは非常に安心に繋がったと思っています。



・～授業開始後：

まずは各クラスで話せる友達を作ろうということを目指にしました。運よく小規模のクラスで、ディスカッションも多いことが関係していると思いますが、授業の回数を重ねていくうちに、話せる人が増えてきました。自分はいつも聞くばかりだと引け目に感じてしまうこともありました。授業を休んだ友達に授業内容を教えるなど、出来る限りの恩返しをしていきたいと考えています。

また、English Conversation Club (ECC) というものが毎週金曜日にあり参加をしています。これは留学生課の様なところがやっている学生のための英会話のサポートの様なもの、普段はトピックにそって話し合いをしたりしますが、時々、ECC 主催のイベント、旅行なども開催されます。そこであったフランスから来た留学生の子と仲良くなり、その後のイベント、小旅行などにも一緒に参加をしました。（後述します）他にもアウトドアの活動が好きなので、Outdoor club に一応入りました。ですが、イベントの人数制限で落ちてしまったり、予定が合わなかったりして大きな活動には参加できていません。

食べ物、生活必需品などは、Wallmart と Nofrills というスーパーをよく利用しています。また、アジアスーパーなども近くにあるので、割高にはなりますが、日本の食材も手に入れることが出来ます。バスや電車で行くことになりますが、生活しやすい環境だと思います。また私は学食の回数券の様なものを購入しました。自炊をする方がリーズナブルではありますが、1日に一回はバランスの良い食事をとれるのでありがたいです。

寮は HUB という名前の色々なお店と寮が一緒になった建物に住んでいます。図書館や駅、いくつかの棟には、外に出ずに行くことができ便利です。4人部屋でキッチン等が共有ですが、温厚なルームメイトなので、問題なく生活ができています。

毎日の生活としては、課題の締め切りやテストの前はほぼ毎日、集中できる環境なので、図書館に通い勉強をしています。少し疲れた時は、友達と話をしたり、料理をしたり、HUBにあるピアノを弾くことが今のリラックスになっています。

少々わかりにくいですが、HUBの内部の様子と部屋の共有部分の写真です。

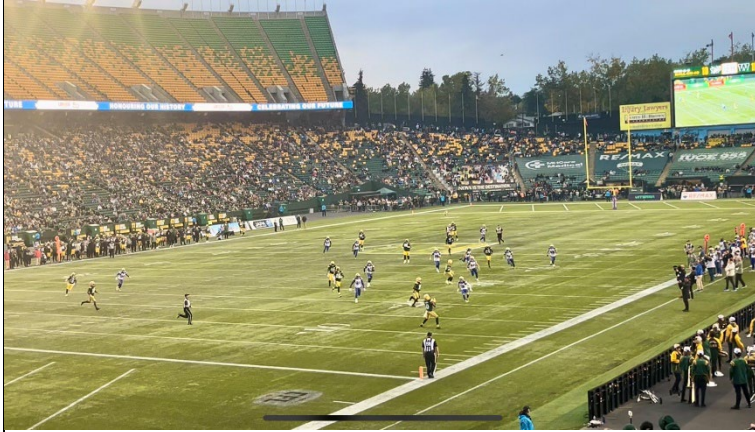


●旅行、お出掛けなど

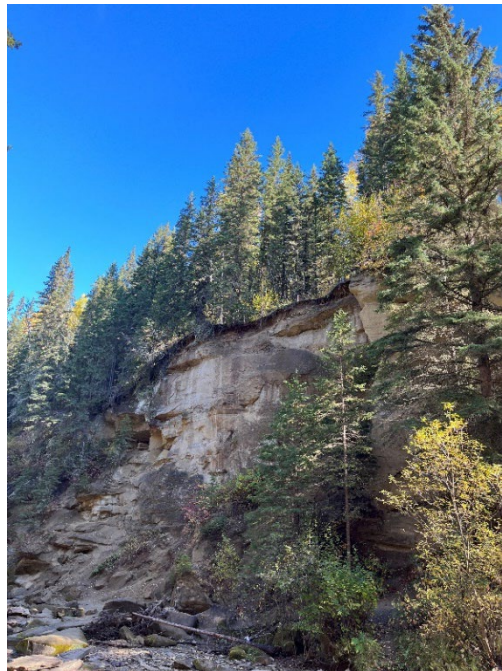
・ボタニカルガーデン：

Welcome イベントの一環になりますが、9月の1週目に大学の運営するボタニカルガーデンへの行ける機会があったので、参加をしました。その後買い物に行ったり、ご飯を食べるときに会って話したりできる友達が出来たので、参加をして良かったです。

・ 去年千葉大学に来ていた友達とアメフトの試合を見に行きました。初めて試合を見ましたが、皆が一丸となって応援しており、とても楽しい空間でした！



・ 9月下旬に友達がドライブに連れて行ってくれました！丁度留学開始から3週間ほどが経ち、生活にも慣れてきたため、急に勉強が大変であることと、寂しさも出てきたからか、気落ちしているところだったので、リフレッシュ出来て、ありがたかったです。その後も色々話を聞いてくれる友達になり、非常に感謝しています。



・ ドラムヘラーの Oneday trip :

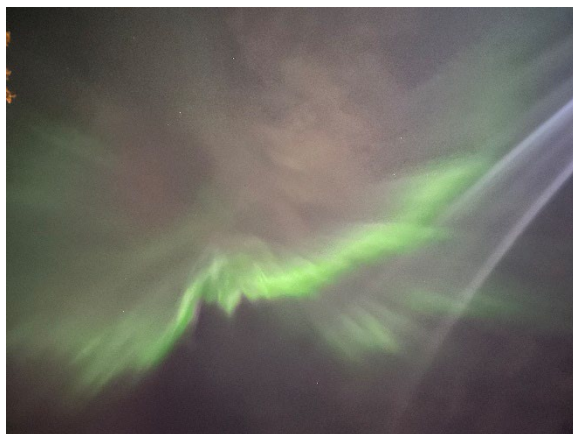
ECC を開催している学校主催の遠足に参加をしました。博物館と Canyon に行くものでしたが、広大な景色と静けさが広がっていて、天候も良く絶景で、勉強で大変な中、とても良いリフレッシュになりました。特にバスの道中3時間半、ずっと話して

いたのが、一番楽しかった思い出かもしれません（笑）



←前述しましたが、
ECC で仲良くなった友達です。

・学校の敷地からオーロラが見えました。→



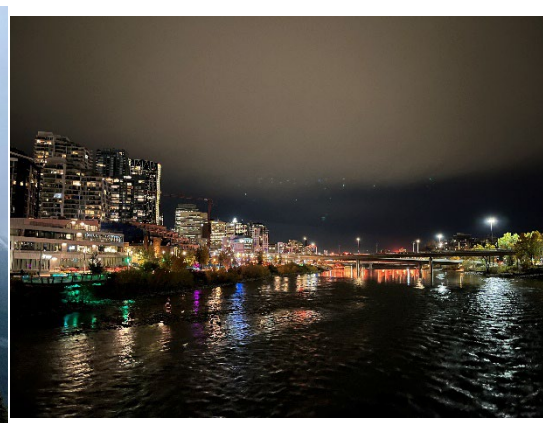
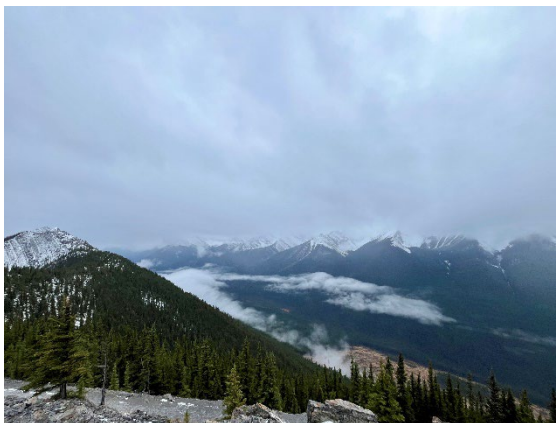
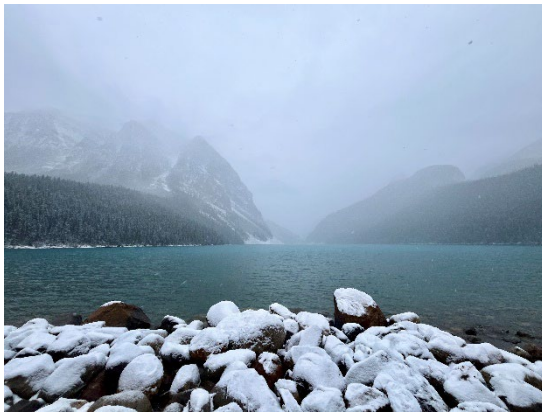
・授業の友達が Thanksgiving の日に家に招待してくれました。そもそもこのイベントを祝ったことが無かったので、全てが新鮮でした。素敵なおうちと温かいご家族で、カナダの文化についても知ることができ、受け入れて頂いたことに感謝しています。
↓一羽丸ごとの七面鳥です。



・カルガリーへの小旅行：

遠足と同じく学校主催の旅行です。10 月中旬の 2 泊 3 日で、アルバータ州内のバンフと、カルガリーの市街地への観光でした。バンフはカナダに来る前から行ってみたい場所であったので、行く機会があり、本当に良かったです。

あいにく雪が降っておりましたが、依然として、非常にきれいで雄大な景色でした。友達とも長い時間を過ごすことができ、良い思い出になりました！



授業の課題やテストとの合間に、予定を詰め込んだ充実したスケジュールになっているのではないかと感じます。冗長な説明も多くあったかと思いますが、お付き合いいただき有難うございました。留学のイメージを持つことの一助になれば幸いです。英語力の不足などに落ち込みそうになることもありますが、授業にしっかりと取り組み、同時にカナダに滞在していること自体も最大限に充実させた留学になるように、残り6か月間も頑張りたいと思います。